

新型コロナウイルス感染症が及ぼす
胃・大腸がん検診受診意識への影響に関する
調査レポート

2022



はじめに

がん（悪性新生物）が死亡原因の1位となっている日本においては、2人に1人ががんにかかり3人に1人ががんで亡くなると言われています。

がんの種類別では、大腸がん、胃がんは肺がんに次いで死亡数が多い一方で、早期に発見し治療した場合の「5年生存率」は95%を超えており、がん検診対象年齢の方の定期的ながん検診受診による早期発見・早期治療が重要と言われています。

しかしながら、2020年以降急速な感染拡大を引き起こした新型コロナウイルス感染症は、医療崩壊リスクや人々の行動制限などを伴う大きな社会的影響をもたらし、それにより新型コロナウイルス感染症拡大が発生する以前と以降とでは、がん検診の受診行動にも少なからず変化が生じていると考えられています。

そこで、今回、新型コロナウイルス感染症による感染拡大が、日本人に多い胃がんと大腸がんのがん検診受診意識にどのような影響を及ぼしているか、日本全国の40代～60代の方々を対象に調査を行いました。

この調査結果が、国民をはじめ医療行政や医療従事者などに広く活用されることで、胃がんと大腸がん等のがん検診受診率が向上し、一人でも多くの方の命が守られることに貢献できることを願っています。

監修医からのメッセージ

今回の調査では、①2021年度以前、②コロナ禍の2020～2021年度、③今年度（2022～2023年度）以降の3つの時間軸で、胃がん・大腸がん検診の受診動向と受診・未受診理由を問う調査を行っています。

その結果、2022～2023年度の計画（実績）では、2020～2021年度に比べてコロナ禍を理由に検診受診を控える方が減る傾向は見られますが、検診の意義や重要性を理解している人は、コロナ禍であっても受診しているのに対して、「自覚症状がないから」などを理由に定期的な受診していない人の多くは、コロナ禍で受診していなかったことがわかります。

厚生労働省では、コロナ禍にあっても「がん検診受診は不要不急の外出にあたらない」ことを啓発し、国民にがんの早期発見のための検診受診を呼びかけています。また、関連学会や団体が新型コロナウイルス感染症対策を踏まえた検診や診療の各種ガイドラインを策定し、医療機関や検診機関ではこれらガイドラインに則ってさまざまな感染症対策を施しています。コロナ禍に関わらず、定期的ながん検診を受診しないとがんを早期に発見する機会を逸してしまうリスクがあります。がんは早期の段階ではほとんど自覚症状がありませんので、そのことを十分にご理解いただき、健康な人こそ定期的ながん検診を受診していただきたいと思います。

私は、さまざまな機会に次のことを繰り返しお伝えしています。それは、「胃がんや大腸がんは早期に見出し治療すれば、5年生存率が95%以上という比較的治りやすい病気であるにもかかわらず、日本では毎年あわせて9万人以上の方が胃がん、大腸がんで亡くなられている」という事実です。

是非、がん検診の対象年齢の方々には、定期的ながん検診を受けていただき、例えがんになってしまったとしても治りやすい早期の段階で見つけ治療することで、未永く健康な人生を楽しんでいただきたいと考えています。



監修医師
河合 隆 先生
東京医科大学
消化器内視鏡学主任教授・
内視鏡センター部長兼任

Contents

1. サマリー	05
I. 新型コロナウイルス感染症が直接的に関係する胃・大腸がん検診受診意識への影響について	06
II. 新型コロナウイルス感染症と異なる要因による胃がん・大腸がん検診受診意識に関する特徴について	08
2. 調査データの詳細	
I. 胃・大腸がん検診の受診経験、受診状況、未受診理由	10
II. 精密検査受診状況、未受診理由	13
III. 胃・大腸がん検診受診計画	14
IV. 胃・大腸がん検診受診理由・非受診理由、受診しようと思う要件	16

調査概要

- | | |
|--|---|
| <p>1. 調査目的</p> <p>新型コロナウイルス感染症が及ぼす胃がん・大腸がん検診受診意識への影響について、年齢・性別等、属性ごとの傾向など、胃がん・大腸がん検診の受診率向上に向けた課題を把握し、胃がん・大腸がんによる死亡者数低減に貢献していくために実施</p> | <p>3. 調査方法</p> <p>インターネット調査</p> |
| <p>2. 調査対象</p> <p>40～60代男女 14,100人（各都道府県 男女性年代別 各50人）※40代が受診対象年齢となっていない場合もある胃がん検診については、設問によっては50～60代の結果を表示しています。</p> | <p>4. 調査期間</p> <p>2022年6月3日（金）～6日（月）</p> <p>5. 調査内容</p> <p>胃がん・大腸がん検診の受診経験
2020～2021年度の胃がん検診・2021年度の大腸がん検診と精密検査に関する受診実績および未受診の理由
2022～2023年度の胃がん検診・2022年度の大腸がん検診の受診計画（実績）と受診、非受診の理由</p> |

回答者の属性

（1）性年代別構成：性年代各2,350人

		40代	50代	60代	合計
男性	人数	2,350	2,350	2,350	7,050
	%	16.7	16.7	16.7	50.0
女性	人数	2,350	2,350	2,350	7,050
	%	16.7	16.7	16.7	50.0
全体	人数	4,700	4,700	4,700	14,100
	%	33.3	33.3	33.3	100.0

（2）エリア別構成：各都道府県300人（男女各150人）

	北海道	東北	関東	中部	近畿	中国	四国	九州・沖縄	全体
人数	300	1,800	2,100	3,000	1,800	1,500	1,200	2,400	14,100
%	2.1	12.8	14.9	21.3	12.8	10.6	8.5	17.0	100.0

（3）職業別構成：

	公務員	経営者・役員	会社員	その他（技術系）	自営業	自由業	専業主婦（主夫）	パート・アルバイト	その他	無職	全体
人数	716	299	3,888	543	894	295	2,450	2,157	779	2,079	14,100
%	5.1	2.1	27.6	3.9	6.3	2.1	17.4	15.3	5.5	14.7	100.0

（4）勤務先規模別構成：

	1～9人	10～49人	50～99人	100～299人	300～999人	1,000人以上	全体
人数	2,293	1,770	989	1,203	1,069	2,247	9,571
%	24.0	18.5	10.3	12.6	11.2	23.5	100.0

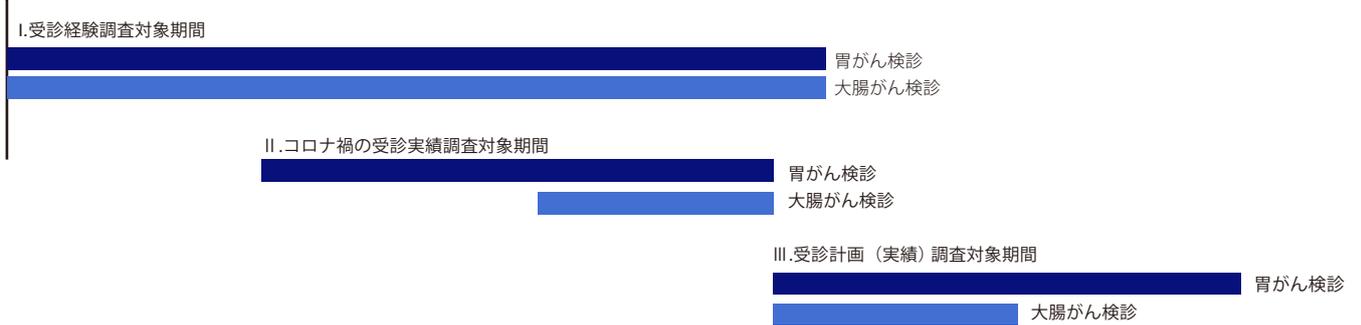
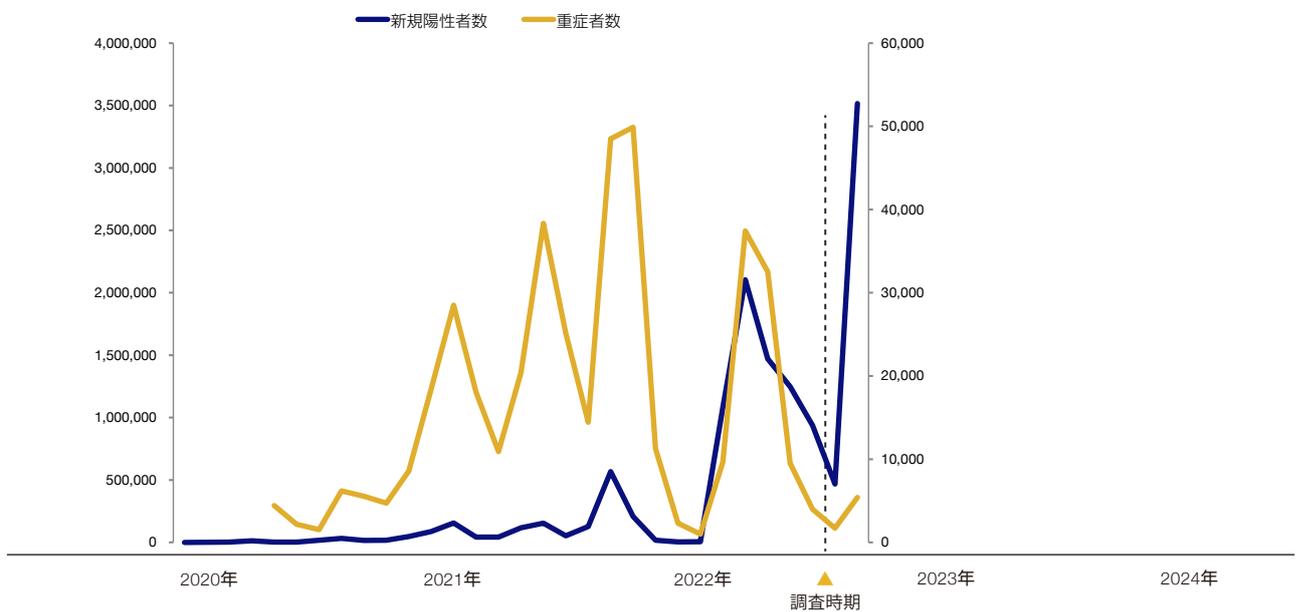
（5）加入している医療保険制度別構成：

	国民健康保険	健康保険組合	全国健康保険協会（協会けんぽ）	共済組合	その他	全体
人数	4,697	3,715	3,576	1,123	989	14,100
%	33.3	26.3	25.4	8.0	7.0	100.0

Summary

胃がん検診は、50歳以上の男女に対して2年に一度、大腸がん検診は40歳以上の男女に対して毎年受診することが推奨されています。今回の調査では、新型コロナウイルス感染症が及ぼす胃がん検診、大腸がん検診の受診行動、意識への影響を調査するため、Ⅰ) がん検診の受診経験、Ⅱ) コロナ禍の2020～2021年度の胃がん検診、2021年度の大腸がん検診・精密検査の受診実績、および未受診の理由、Ⅲ) 調査実施以降（2022～2023年度）の胃がん検診、（2022年度）の大腸がん検診の受診計画（実績）と受診、非受診の理由について調査を行いました。

新型コロナウイルス感染症新規陽性者数と重症者数の推移（人）
 ※厚生労働省「感染症発生動向情報等」（2022年8月7日発表）より引用



Summary

I. 新型コロナウイルス感染症が直接的に関係する 胃・大腸がん検診受診意識への影響について

胃がん・大腸がん検診のこれまでの受診経験において、「定期的を受診している」人を除くと、「受けたことはあるが定期的には受けていない」と回答した人の多くが、コロナ禍では胃がん検診や大腸がん検診を受診していない。

胃がん検診の受診状況についての設問にて、コロナ禍の2020～2021年度に胃がん検診を「受診した」と回答した人は50～60代全体の43.5%に留まりました。これまでの胃がん検診の受診経験に関する設問にて、「定期的を受診している」と回答している人が41.3%であることを踏まえると、「受けたことはあるが定期的には受けていない」の回答者（29.5%）の多くが、コロナ禍の2020～2021年度では胃がん検診を受診していなかったことが考えられます。

また、大腸がん検診の受診状況についての設問にて、コロナ禍の2021年度に大腸がん検診を「受診した」と回答した人は40～60代全体の39.3%に留まりました。大腸がん検診のこれまでの受診経験に関する設問にて、「定期的を受診している」と回答している人が35.2%であることを踏まえると、「受けたことはあるが定期的には受けていない」の回答者（26.4%）の多くが、コロナ禍の2021年度では大腸がん検診を受診していなかったことが考えられます。

※関連ページ：p10,11

2020～2021年度の胃がん・2021年度の大腸がん検診未受診理由にコロナ禍を挙げた人は16.9%。

16.9%

2020～2021年度の胃がん・
2021年度の大腸がん検診
未受診理由にコロナ禍を挙げた人
n=9696

2020～2021年度の胃がん・2021年度の大腸がん検診未受診理由に、「コロナ禍で医療機関に行きたくないから」「コロナ禍の検査が不安だから」を挙げた人は合計で16.9%。2022～2023年度の胃がん・2022年度の大腸がん検診非受診理由※1に、コロナ禍を挙げた人は10.5%となりました。

このことから、2022年度／2023年度においては、2020年度／2021年度に比べ、コロナ禍を理由に検診の受診を躊躇する人の割合が減っていることにはなりますが、依然として非受診理由にコロナ禍を挙げる人が一定数いらっしゃる結果となりました。

また、2020～2021年の胃がん検診／大腸がん検診の結果、要精密検査と判定されながらも精密検査を受診しなかった人の未受診理由として、コロナ禍に関連する理由を挙げた人の割合は、胃がんの精密検査では5.9%、大腸がんの精密検査では12.2%となりました。胃がん検診、大腸がん検診の未受診理由としてコロナ禍に関連する理由を挙げた人の割合（16.9%）よりは少ないものの、一定数の人がコロナ禍を精密検査の未受診理由に挙げている結果となりました。

※1. 非受診理由：将来の対象期間に、受診しない理由

※関連ページ：p12,13,17

年代別では年齢の高い世代、性別では女性ほど、コロナ禍を気にしている傾向

40代 < 50代 < 60代
男性 < 女性

2020～2021年度の胃がん検診、2021年度の大腸がん検診のいずれかを未受診だった人で、未受診理由にコロナ禍を挙げた人の割合は、年代別では、40代（12.7%）、50代（16.9%）、60代（21.6%）と年代の高い人、性別では、男性（13.6%）、女性（19.8%）と女性の方が多く、コロナ禍を気にしている結果となりました。

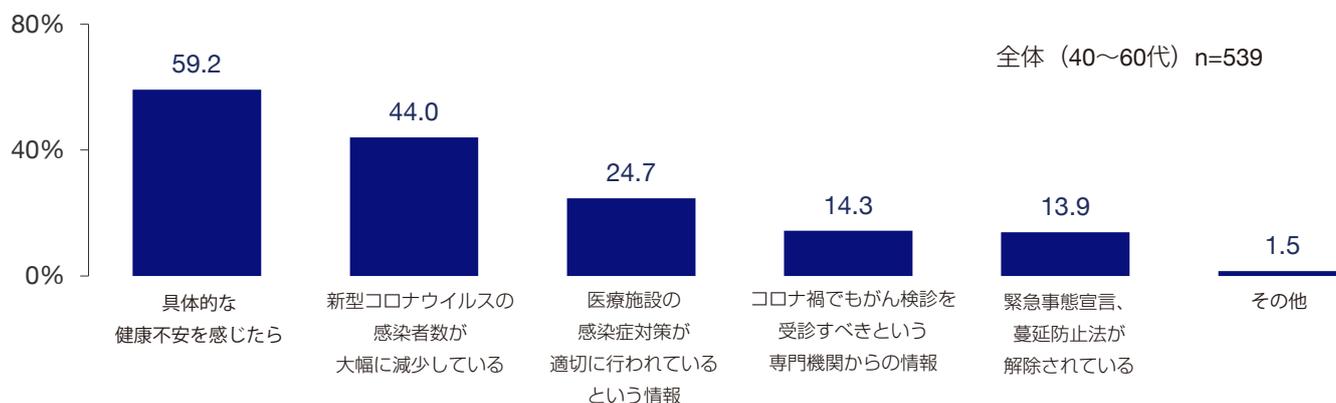
※関連ページ：p12

コロナ禍でがん検診受診を躊躇している人が、受けようと思うための要件

胃がん検診、大腸がん検診を受診しようと思わない理由に「コロナ禍で医療機関に行きたくないから」または「コロナ禍の検査が不安だから」と回答した人に対して、どのような条件が整えば受診しようと思うか質問したところ、回答の多い順に「具体的な健康不安を感じたら（59.2%）」「新型コロナウイルス感染者数が大幅に減少している（44.0%）」「医療施設の感染症対策が適切に行われているという情報（24.7%）」「コロナ禍でもがん検診を受診すべきという専門機関からの情報（14.3%）」「緊急事態宣言、蔓延防止法が解除されている（13.9%）」となりました。

※関連ページ：p18

コロナ禍でも胃がん検診／大腸がん検診を受診しようと思うために必要な要件



Summary

Ⅱ. 新型コロナウイルス感染症と異なる要因による 胃がん・大腸がん検診受診意識に関する特徴について

胃がん検診、大腸がん検診を受診しようと思わない理由：「自覚症状がないから」が最多。

45.0%

がん検診を受診しようと思わない理由
「自覚症状がないから」
n=5150

2年に一度胃がん検診を受診することが推奨されている50歳以上の男女に対して、今回の調査実施年度と翌年度の2年間（2022年～2023年度）における胃がん検診の受診計画（実績）を調査しました。その結果、「受けた、確実に受ける（28.4%）」「多分受ける（18.8%）」と受診に前向きな回答をした人が計47.3%なのに対して、「確実に受けない（10.2%）」「多分受けない（20.0%）」と受診に後ろ向きな回答をした人が計30.2%となり、受診に前向きな回答の方が上回ってはいるものの引き続き受診に後ろ向きの人も多い結果となりました。

また、毎年大腸がん検診を受診することが推奨されている40歳以上の男女に対して、今回の調査実施年度の2022年度における大腸がん検診の受診計画（実績）を調査しました。結果、「受けた、確実に受ける（25.8%）」「多分受ける（17.7%）」と受診に前向きな回答をした人が計43.5%なのに対して、「確実に受けない（11.6%）」「多分受けない（19.6%）」と受診に後ろ向きな回答をした人が計31.3%となり、受診に前向きな回答の方が上回ってはいるものの引き続き受診に後ろ向きの人も多い結果となりました。その理由として最も多かったのは、「自覚症状がないから（45.0%）」、次いで「検査が嫌だから（34.3%）」「検査が面倒だから（33.5%）」がほぼ同じ程度に多い結果となりました。年代別では、年齢が低い世代ほど「検査費用が気になるから」を選択した人の割合が高く、40代（23.4%）、50代（19.5%）、60代（14.8%）となりました。性別では、女性の方が「検査が嫌だから」と回答（男性 27.0%・女性 40.3%）する割合が高い結果となりました。

※関連する設問と回答：p14,15,17

胃がん検診、大腸がん検診を受診しようと思う理由：「自覚症状はないが、検診を受けるべきと考えるから」が最多。

57.8%

がん検診を受診しようと思う理由
「自覚症状はないが、
検診を受けるべきと考えるから」
n=7148

2022～2023年度の胃がん検診、2022年度の大腸がん検診について、「受けた、確実に受ける」「多分受ける」と回答した人に理由を質問したところ、「自覚症状はないが、検診を受けるべきと考えるから（57.8%）」「市区町村、職場、人間ドックなどから検診の案内があったから（36.8%）」が多い結果となりました。

それに対し、「自覚症状があるから（2.9%）」「医療施設の感染対策により、コロナ感染リスクは低いと思うから（3.6%）」は少なく、受診しようとする人は、胃がん検診・大腸がん検診共に、検診を受診することの意義を理解している人が多く、自覚症状の有無、コロナ感染リスクへの懸念はそれほど受診行動に影響していない結果となりました。

年代別では、「自覚症状はないが、検診を受けるべきと考えるから」を選択しているのは、40代（53.0%）、50代（56.8%）、60代（62.4%）と年代が高いほど多い結果となりました。

※関連ページ：p16

胃がん検診、大腸がん検診を「定期的に受診している」との回答は、年代が高い人、性別では男性ほど多く、「国民健康保険」加入者、従業員規模の少ない勤務先の人ほど少ない傾向あり。

胃がん検診、大腸がん検診の受診経験に関する設問において、「定期的に受診している」と回答する人の割合は、年代別では年代が高い人、性別では男性の方が高く、年代の高い人と男性ほど、定期的に胃がん検診、大腸がん検診を受診している結果となりました。逆に、「定期的に受診している」と回答した人が少なかったのは、加入している医療保険別では「国民健康保険」と「その他」を選択した人、従業員規模別では「従業員数が少ない」勤務先に所属している場合ほど「定期的に受診している」人の割合が低い結果となりました。この傾向は、胃がん検診、大腸がん検診においても同様の傾向を示しており、属性環境によって受診経験に差がある結果となりました。

※関連ページ：p10,11

2020～2021年度の胃がん検診、2021年度の大腸がん検診において
要精密検査対象者の28.3%（胃がん）、20.4%（大腸がん）が精密検査を未受診。

28.3%



胃がん
精密検査未受診者
n=120

2020～2021年度の胃がん検診、2021年度の大腸がん検診において要精密検査でありながら「精密検査を受診しなかった」と回答した人に理由を質問したところ、「自覚症状がないから（胃がん：52.9%、大腸がん：38.8%）」が最も多い回答となりました。

次いで、胃がんでは「検査が面倒 だから（17.6%）」、大腸がんでは「痔の出血で陽性となったかもしれないから（28.6%）」が多い結果となりました。

20.4%



大腸がん
精密検査未受診者
n=240

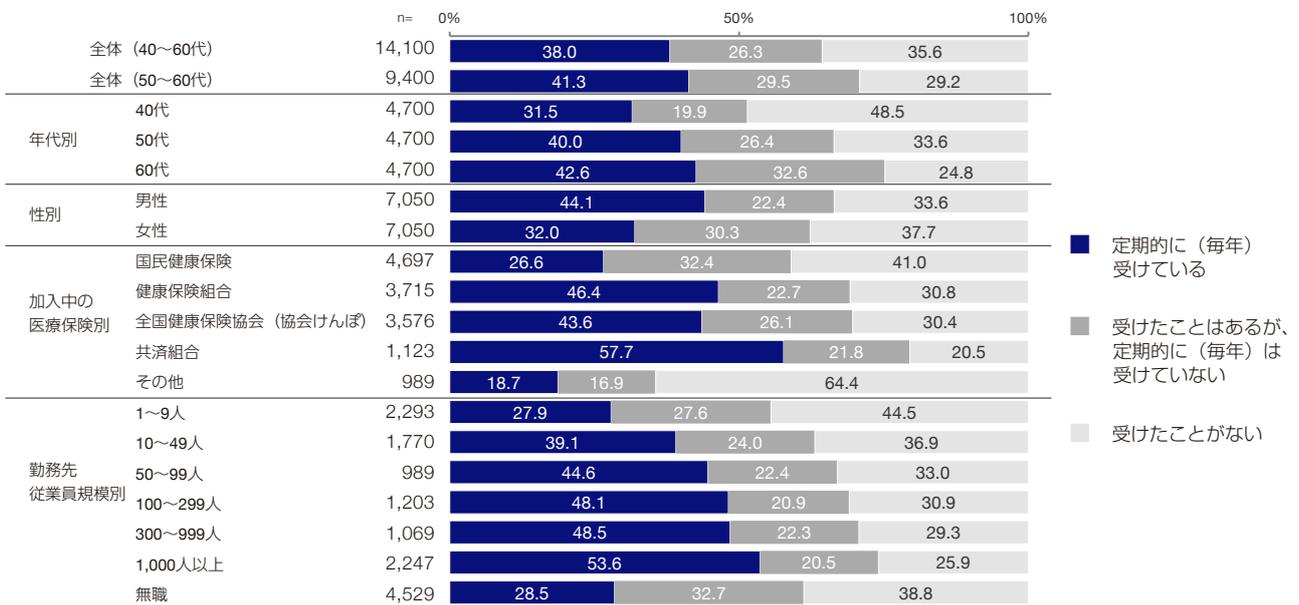
※関連ページ：p13

調査データの詳細

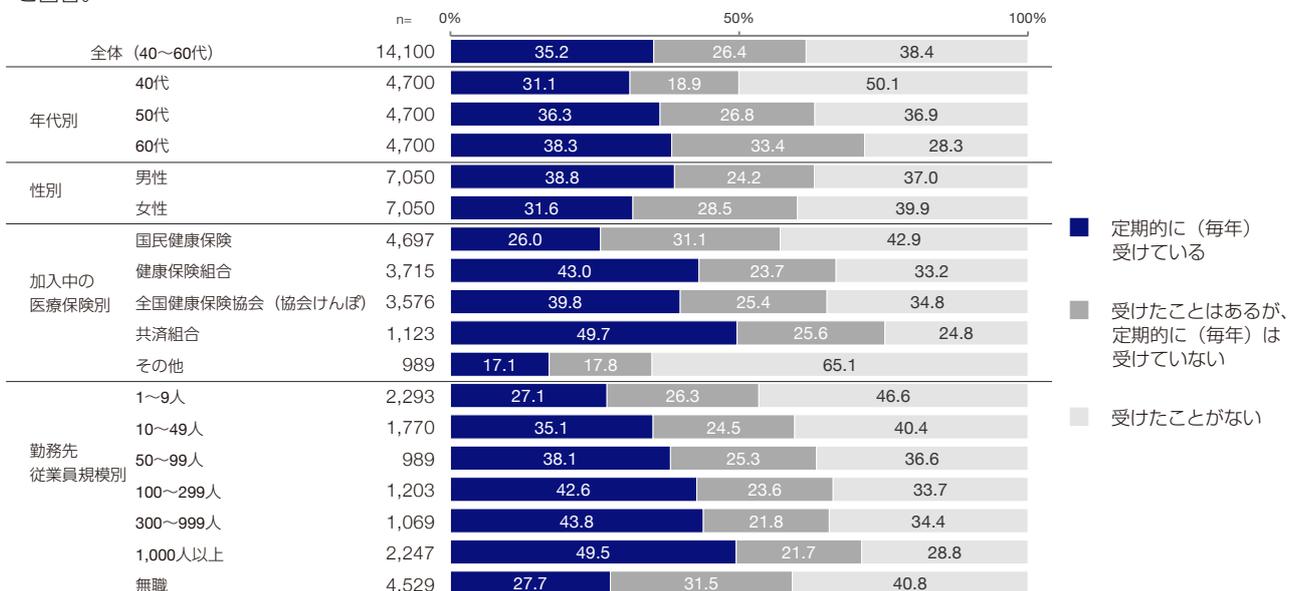
胃・大腸がん検診の受診経験

- 年代別で見ると、年代が高いほど「定期的に受けている」と回答した人が多い。
- 男性は「定期的に受けている」と回答した人が女性と比べて相対的に多い。(胃がん検診/男性：44.1% 女性：32.0%、大腸がん検診/男性：38.8% 女性：31.6%)
- 加入している医療保険制度別では、「定期的に受けている」と回答した人は共済組合、健康保険組合、全国健康保険協会（協会けんぽ）の順に多く、国民健康保険やその他では少ない。
- 勤務先の従業員規模別では、無職、従業員が少ない勤務先では「定期的に受けている」と回答した人が少なく、従業員数が多い勤務先ほど「定期的に受けている」と回答した人が多い。

胃がん検診(X線検査または、胃部内視鏡検査)の受診経験
 胃がん検診が推奨される50代以上の全体で、41.3%が胃がん検診を「定期的に受けている」と回答し、29.2%が「受けたことがない」と回答。



大腸がん検診(便潜血検査または、大腸内視鏡検査)の受診経験
 大腸がん検診が推奨される40代以上の全体で、35.2%が大腸がん検診を「定期的に受けている」と回答し、38.4%が「受けたことがない」と回答。

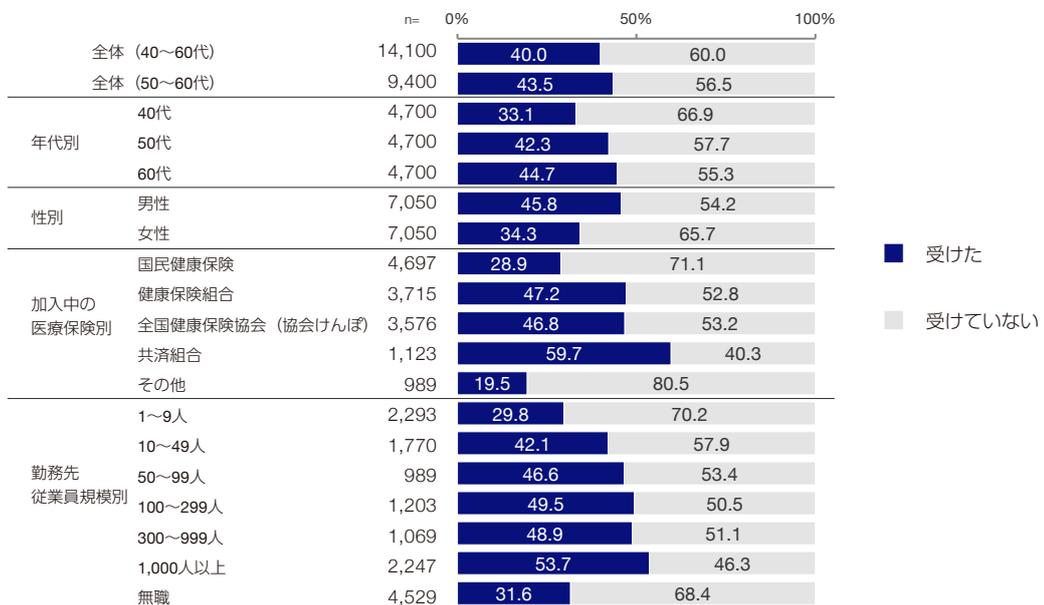


コロナ禍（2020～2021年度）における胃・大腸がん検診の受診状況

- 年代が高いほど「受けた」と回答した人が多い。
- 女性よりも男性の方が「受けた」と回答した人が多い。（胃がん検診／男性：45.8%、女性：34.3%、大腸がん検診／男性：42.5%、女性：36.0%）
- 加入している医療保険制度別では、国民健康保険加入者で「受けていない」と回答した人の割合が顕著に高い。（胃がん検診：71.1%、大腸がん検診：69.9%）
- 勤務先の従業員規模別では、従業員数が多い勤務先ほど「受けた」と回答した人が多く、従業員数の少ない勤務先や無職では「受けていない」と回答した人が多い。

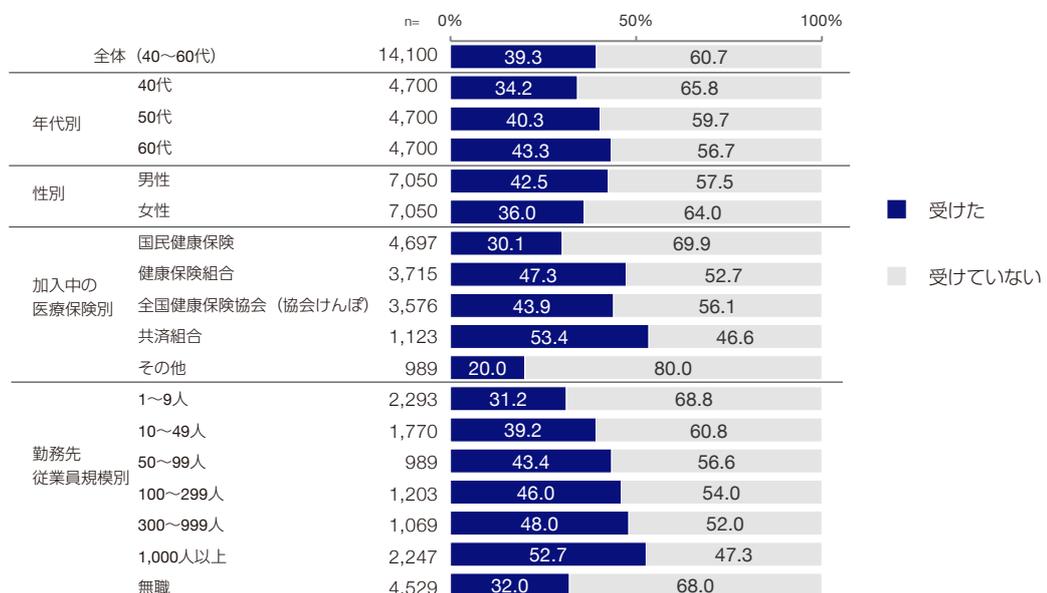
胃がん検診（X線検査または、胃部内視鏡検査）の受診状況

2020～2021年度のコロナ禍で、胃がん検診が推奨される50代以上の56.5%が胃がん検診を「受けていない」と回答。



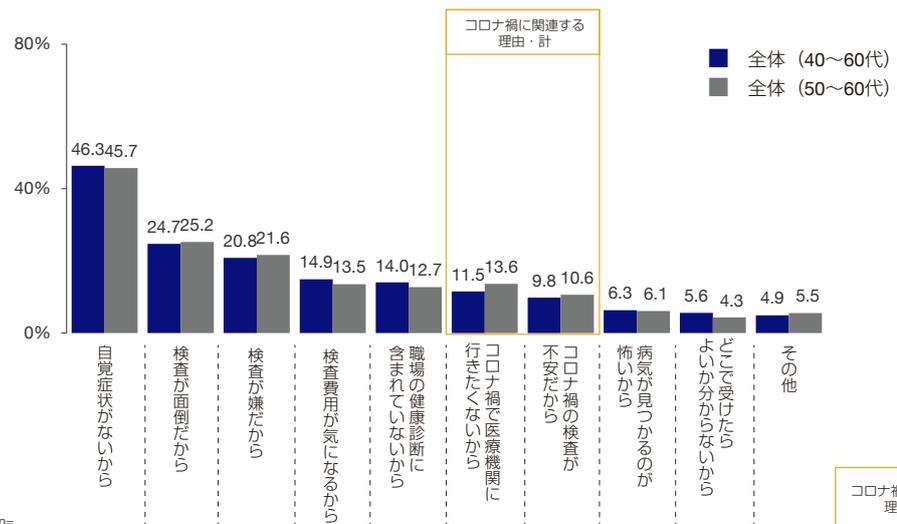
大腸がん検診（便潜血検査または、大腸内視鏡検査）の受診状況

2021年度のコロナ禍で、大腸がん検診が推奨される40代以上の60.7%が大腸がん検診を「受けていない」と回答。



コロナ禍（2020～2021年度）における胃・大腸がん検診未受診理由

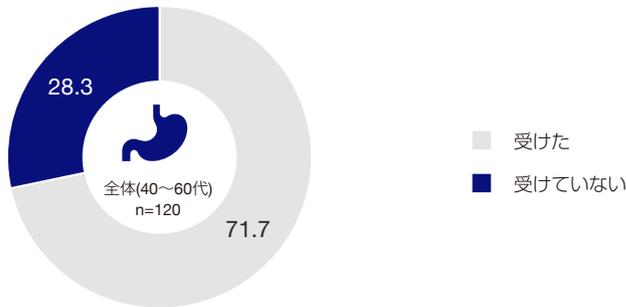
- 「自覚症状がないから（46.3%）」が最も多く、次いで「検査が面倒だから（24.7%）」「検査が嫌だから（20.8%）」の順に多い。
- 「コロナ禍で医療機関に行きたくないから（11.5%）」、「コロナ禍の検査が不安だから（9.8%）」を未受診理由に挙げた人も一定数存在している。特に、年代別では年代の高い人、性別では女性の方が、コロナ禍での検査を未受診理由に挙げており、コロナ禍でのがん検診受診を躊躇していることがわかる。



	n=	自覚症状がないから	検査が面倒だから	検査が嫌だから	検査費用が気になるから	職場の健康診断に含まれていないから	コロナ禍で医療機関に行きたくないから	コロナ禍の検査が不安だから	怖いから	病気が見つかるのがよいか分からないから	その他	コロナ禍に関する理由・計
全体 (40～60代)	9,696	46.3	24.7	20.8	14.9	14.0	11.5	9.8	6.3	5.6	4.9	16.9
全体 (50～60代)	6,219	45.7	25.2	21.6	13.5	12.7	13.6	10.6	6.1	4.3	5.5	19.2
年代別												
40代	3,477	47.5	23.9	19.2	17.3	16.3	7.6	8.2	6.5	7.9	3.8	12.7
50代	3,163	45.6	25.4	20.8	14.8	14.7	11.6	9.5	6.4	5.2	4.8	16.9
60代	3,056	45.7	25.0	22.5	12.1	10.7	15.8	11.8	5.8	3.3	6.3	21.6
性別												
男性	4,524	49.2	24.8	15.6	15.7	16.7	8.3	8.3	5.0	6.0	4.7	13.6
女性	5,172	43.8	24.7	25.3	14.1	11.6	14.2	11.0	7.4	5.2	5.1	19.8
加入中の医療保険別												
国民健康保険	3,658	47.9	30.6	24.2	17.4	5.4	15.6	11.7	7.8	5.5	4.8	20.8
健康保険組合	2,307	46.6	21.2	19.0	13.1	22.2	8.8	6.5	5.2	5.9	4.5	12.4
全国健康保険協会 (協会けんぽ)	2,290	43.3	23.2	20.0	15.2	22.6	9.4	7.6	5.6	5.5	5.2	13.3
共済組合	599	43.4	21.7	18.7	11.9	16.5	9.0	7.5	4.2	4.7	7.0	13.7
その他	842	48.9	15.3	14.4	9.7	3.8	8.6	17.9	5.6	5.5	4.4	24.1
勤務先従業員規模別												
1～9人	1,764	51.0	27.8	20.0	15.5	7.0	12.4	9.7	6.4	6.0	4.8	17.5
10～49人	1,209	46.1	21.1	18.9	14.7	21.0	7.6	8.4	6.0	5.4	3.1	13.1
50～99人	640	43.9	19.5	16.3	13.6	23.6	9.4	7.5	3.6	5.8	3.8	14.2
100～299人	736	45.0	20.1	17.1	15.4	28.7	6.5	6.5	4.1	6.4	4.5	11.0
300～999人	655	48.1	22.3	18.9	14.5	25.0	7.8	6.6	4.9	5.0	4.6	12.2
1,000人以上	1,271	47.4	21.0	16.2	15.0	27.1	5.7	6.7	4.3	6.6	5.1	9.5
無職	3,421	44.0	28.3	25.5	14.7	3.2	16.7	13.2	8.2	4.9	6.0	23.3

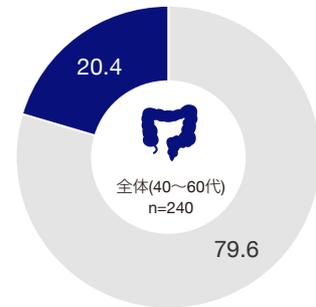
コロナ禍（2020～2021年度）の精密検査受診状況

胃がん検診陽性者の精密検査(胃内視鏡検査)受診状況



胃がん検診の結果、要精密検査と判定された方のうち、28.3%が精密検査を「受けていない」と回答。

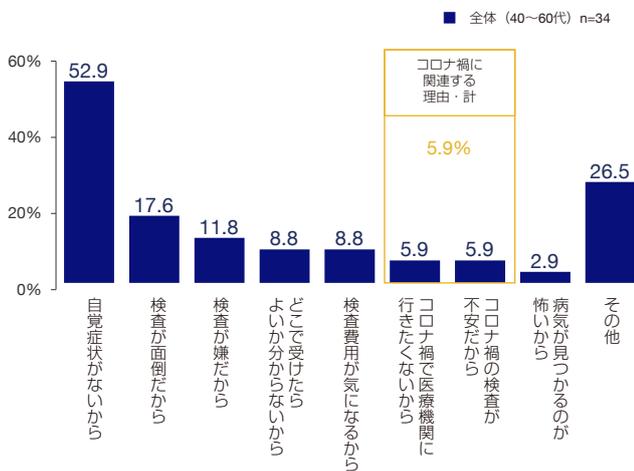
大腸がん検診陽性者の精密検査(大腸内視鏡検査)受診状況



大腸がん検診の結果、要精密検査と判定された方のうち、20.4%が精密検査を「受けていない」と回答。

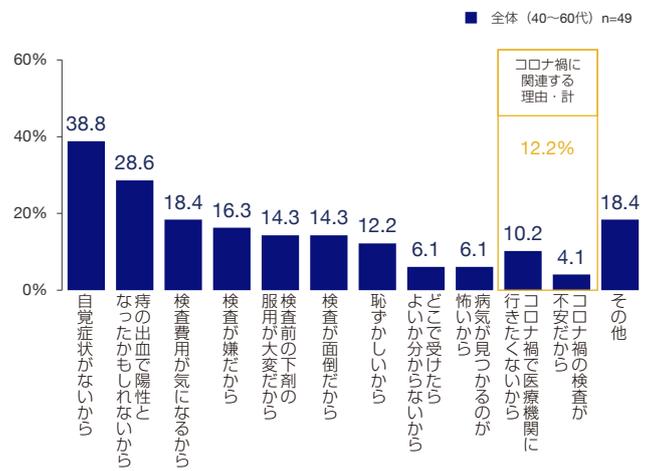
コロナ禍（2020～2021年度）の精密検査未受診理由

胃がん検診陽性者の精密検査未受診理由



「自覚症状がないから（52.9%）」が最も多く、次いで「検査が面倒だから（17.6%）」「検査が嫌だから（11.8%）」の順に多い。「コロナ禍で医療機関に行きたくないから（5.9%）」、「コロナ禍の検査が不安だから（5.9%）」を未受診理由に挙げた人も一定数存在している。

大腸がん検診陽性者の精密検査未受診理由



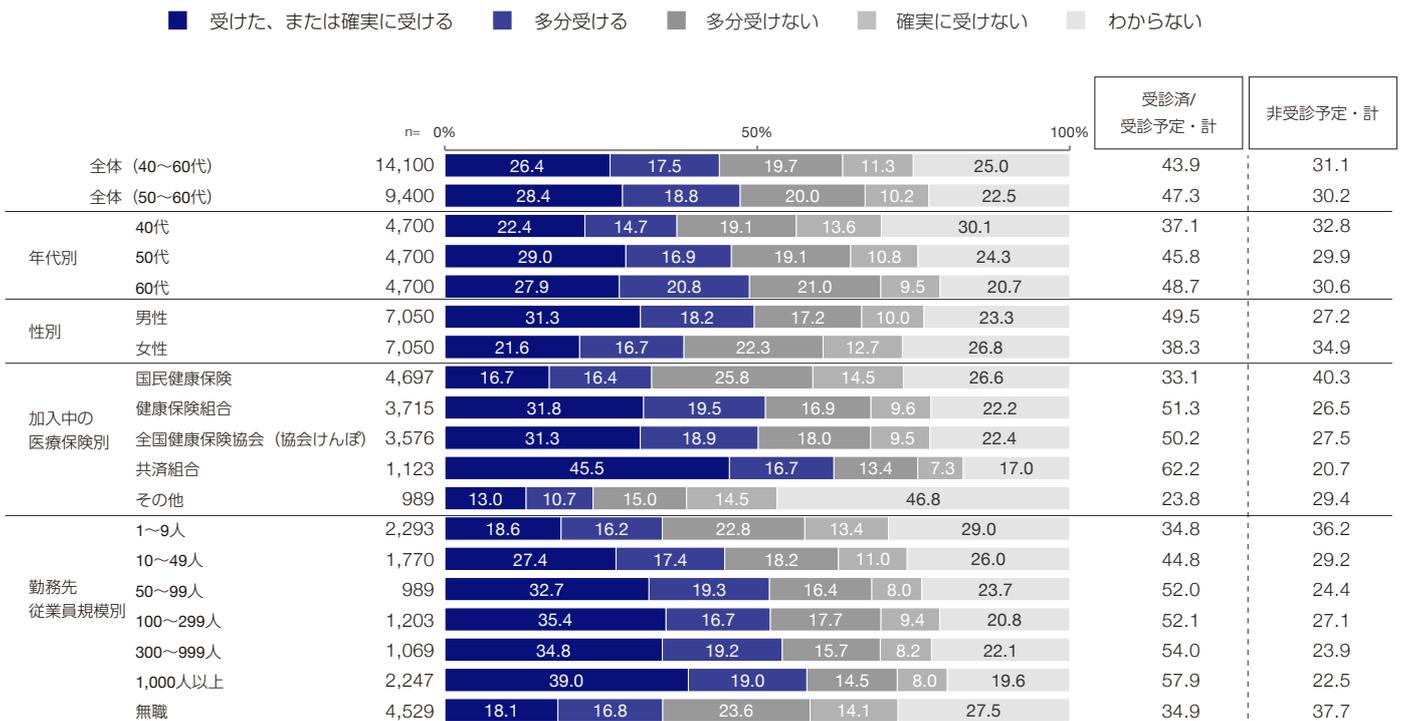
「自覚症状がないから（38.8%）」が最も多く、次いで「痔の出血で陽性となったかもしれないから（28.6%）」「検査費用が気になるから（18.4%）」の順に多い。「コロナ禍で医療機関に行きたくないから（10.2%）」、「コロナ禍の検査が不安だから（4.1%）」を未受診理由に挙げた人も一定数存在している。

2022～2023年度の胃がん・2022年度の大腸がん検診の受診計画

- 年代別では、年代が高いほど「受ける」と回答する割合が高く、「わからない」の回答は年代が低いほど多い。
- 性別では、男性の方が「受ける」と回答した人が多く、女性の方が「受けない」と回答した人が多い。
- 加入している医療保険制度別では、国民健康保険加入者の「受けない」と回答する割合が他と比べて相対的に高い。
- 勤務先の従業員規模別では、従業員が少ない勤務先や無職では「受けない」と回答した人が多く、従業員数が多い勤務先ほど「受ける」と回答した人が多い。

2022～2023年度の胃がん検診の受診計画

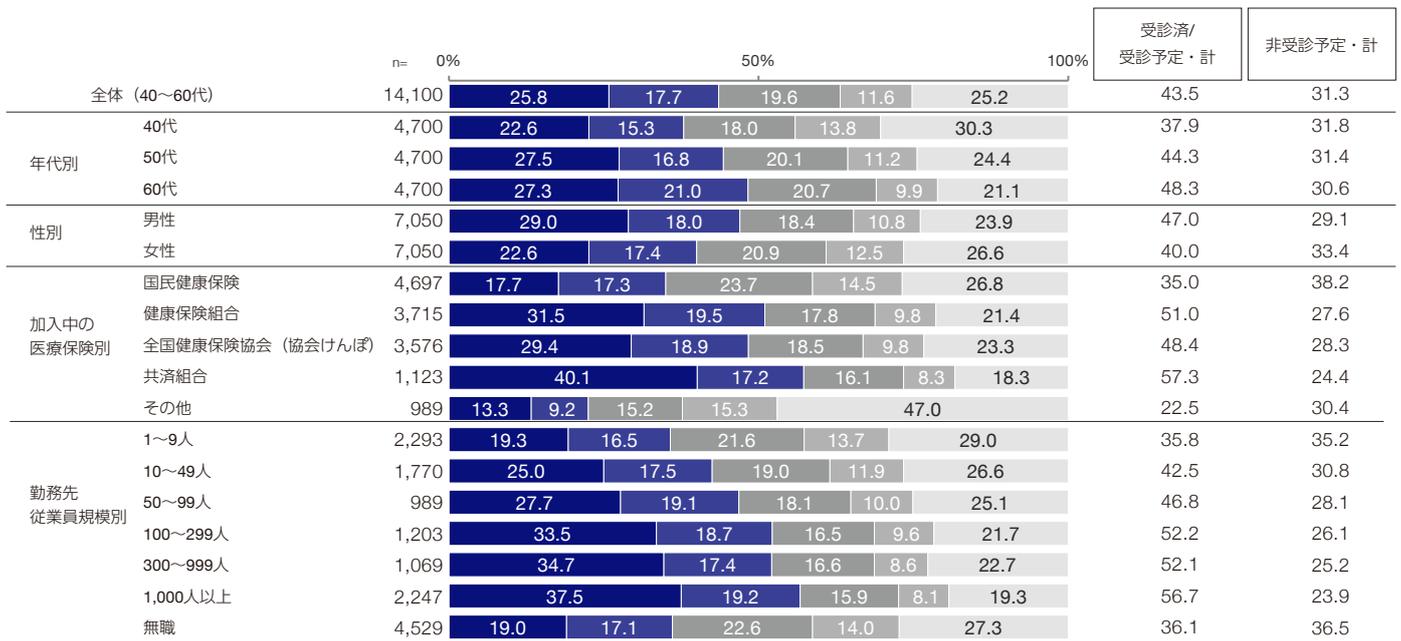
胃がん検診が推奨される50代以上の全体で、2022～2023年度に胃がん検診を「受けた、または確実に受ける（28.4%）」「多分受ける（18.8%）」と回答した合計は47.3%。「確実に受けない（10.2%）」「多分受けない（20.0%）」と回答した合計は30.2%。受けることに肯定的な人の割合が、受けないと考えている人を上回ったものの、引き続き30.2%が「受けない」と回答し、「わからない」も22.5%と多い結果となった。



2022年度の大腸がん検診の受診計画

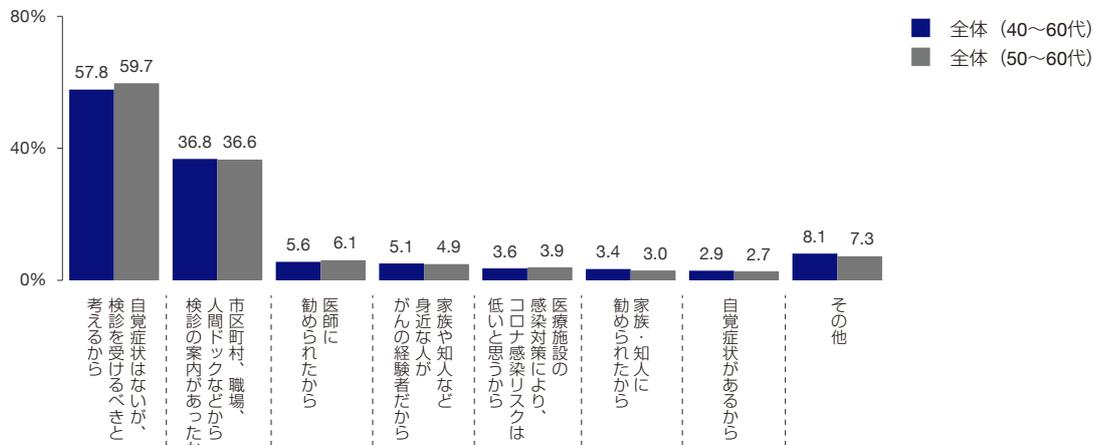
大腸がん検診が推奨される40代以上の全体で、2022年度に大腸がん検診を「受けた、または確実に受ける（25.8%）」「多分受ける（17.7%）」と回答した合計は43.5%。「確実に受けない（11.6%）」「多分受けない（19.6%）」と回答した合計は31.3%。受けることに肯定的な人の割合が、受けないと考えている人を上回ったものの、引き続き31.3%が「受けない」と回答し、「わからない」も25.2%と多い結果となった。

■ 受けた、または確実に受ける ■ 多分受ける ■ 多分受けない ■ 確実に受けない ■ わからない



2022～2023年度に胃がん検診／大腸がん検診を受診する（した）理由

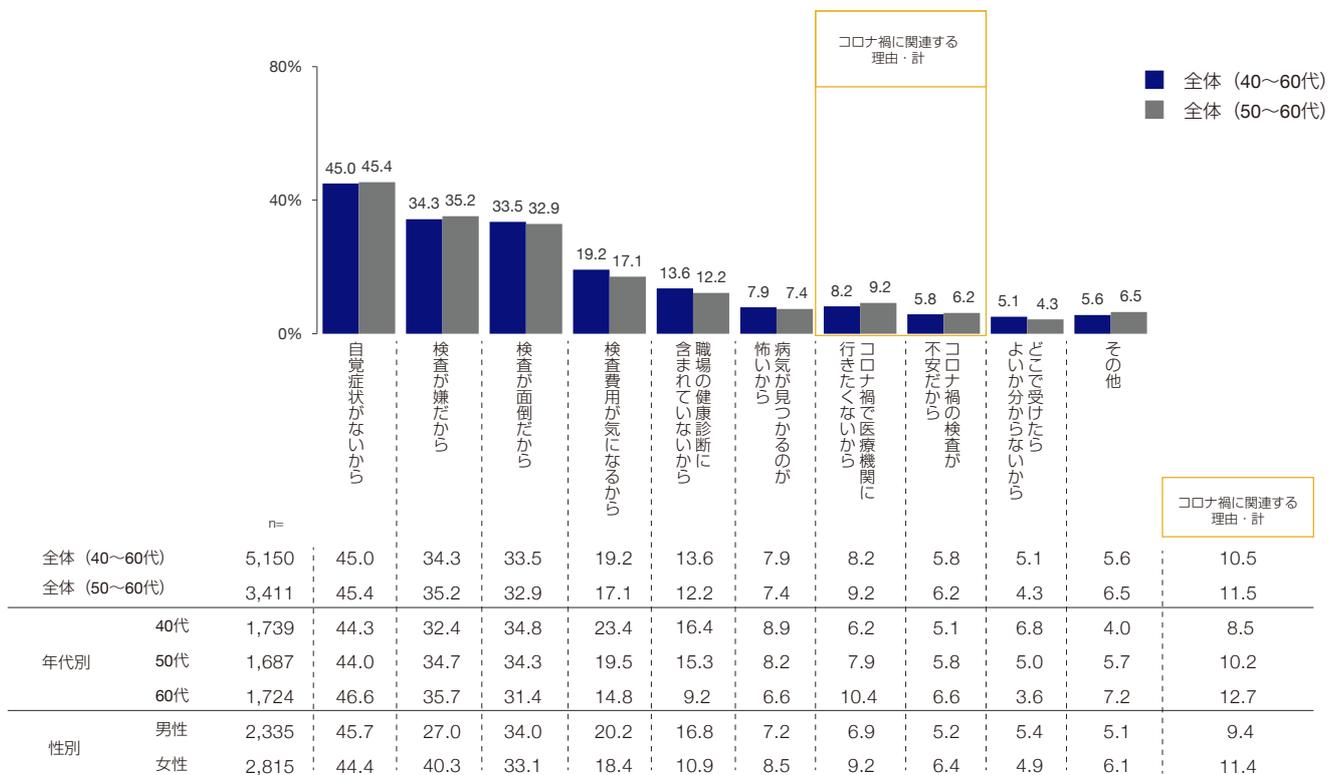
- 受診しようと思う（受診した）理由として最も多いのは、「自覚症状はないが、検診を受けるべきと考えるから（57.8%）」。
次いで、「市区町村、職場、人間ドックなどから検診の案内があったから（36.8%）」が多い。
- 受診しようとする理由として、「自覚症状があるから」「医療施設の感染対策により、コロナ感染リスクは低いと思うから」と回答した割合は低い。
- 年代別では、「自覚症状はないが、検診を受けるべきと考えるから」を選択しているのは、40代（53.0%）、50代（56.8%）、60代（62.4%）と年代が高いほど多い。



n=										
全体 (40～60代)	7,148	57.8	36.8	5.6	5.1	3.6	3.4	2.9	8.1	
全体 (50～60代)	5,089	59.7	36.6	6.1	4.9	3.9	3.0	2.7	7.3	
年代別	40代	2,059	53.0	37.4	4.2	5.7	3.0	4.6	3.5	9.9
	50代	2,452	56.8	35.9	4.6	4.5	3.8	3.2	3.0	8.8
	60代	2,637	62.4	37.2	7.5	5.3	4.0	2.8	2.4	6.0
性別	男性	3,880	56.9	35.1	5.6	4.0	3.0	3.4	2.5	9.3
	女性	3,268	58.7	38.8	5.6	6.5	4.4	3.5	3.4	6.6

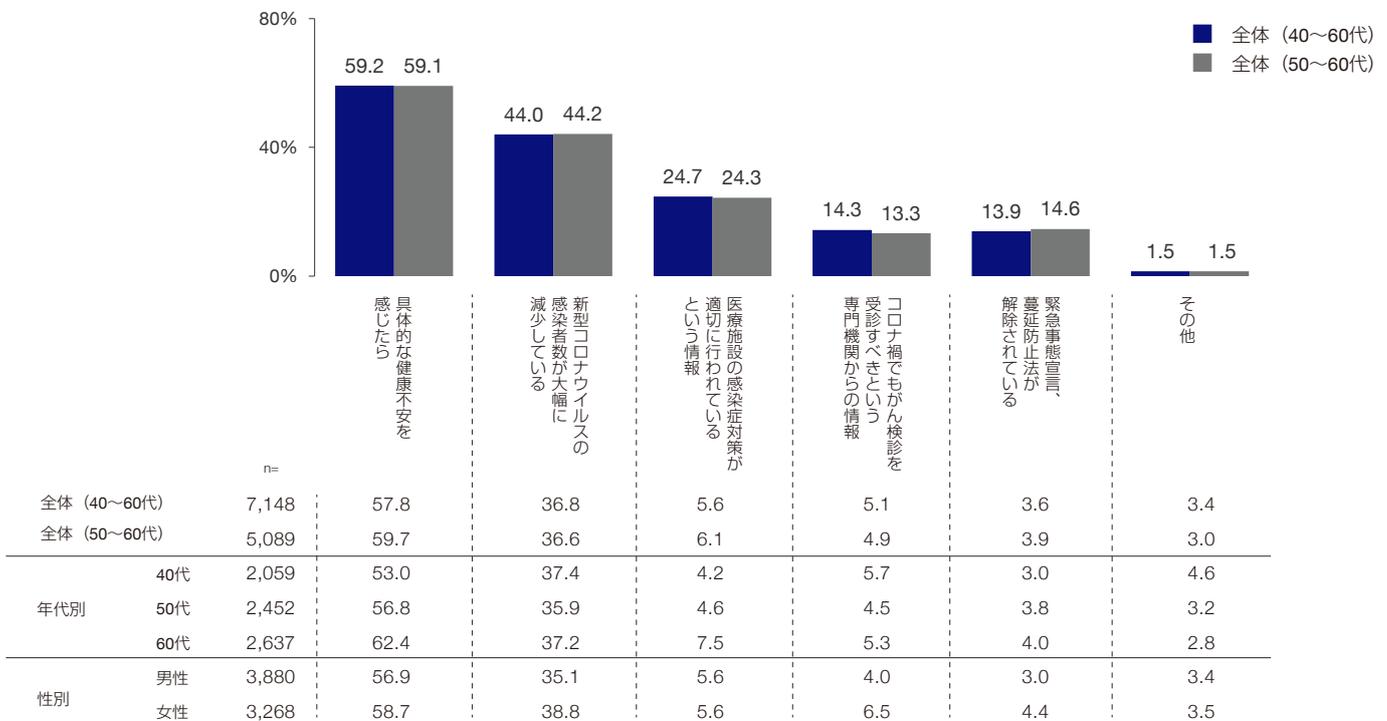
2022～2023年度に胃がん検診／大腸がん検診を受診しない理由

- 「多分受けない」「確実に受けない」と回答した人に理由を質問したところ、「自覚症状がないから（45.0%）」が最も多く、次いで「検査が嫌だから（34.3%）」「検査が面倒だから（33.5%）」がほぼ同じ程度に多い回答となった。
- コロナ禍に関連する理由を回答した割合は「コロナ禍で医療機関に行きたくないから（8.2%）」、「コロナ禍の検査が不安だから（5.8%）」で、コロナ禍に関連するいずれかの理由を挙げたのは全体の10.5%となり、年代別では年代の高い世代ほど多く、性別では女性が受診しない理由として選択する割合が高かった。
- 「検査が嫌だから」の回答は、男性27.0%、女性40.3%と女性に多い結果となった。
- 「検査費用が気になるから」を選択した人の割合は、40代（23.4%）、50代（19.5%）、60代（14.8%）と年代が低いほど高かった。



コロナ禍でも胃がん検診／大腸がん検診を受診しようと思うために必要な要件

- 受診しようと思わない理由に「コロナ禍で医療機関に行きたくないから」または「コロナ禍の検査が不安だから」と回答した人に、どのような条件が整えば受診しようと思うか質問したところ、回答の多い順に「具体的な健康不安を感じたら（59.2%）」、「新型コロナウイルスの感染者数が大幅に減少している（44.0%）」「医療施設の感染症対策が適切に行われているという情報（24.7%）」、「コロナ禍でもがん検診を受診すべきという専門機関からの情報（14.3%）」、「緊急事態宣言、蔓延防止法が解除されている（13.9%）」となった。
- がん検診は、自覚症状などの具体的な健康不安がなくても受診することが大切であること、コロナ禍にあってもがん検診受診は不要不急の外出にあたらぬこと、関連する学会や団体が策定した新型コロナウイルス感染症対策を踏まえた検診や診療の各種ガイドラインに基づき、医療機関や検診機関ではさまざまな感染症対策が施されていることなどを広く告知し、国民に理解していただくことが重要であると考察される。



OLYMPUS

2022年9月 発行

編集・発行 オリンパス株式会社 (Olympus Corporation)

〒163-0914 東京都新宿区西新宿2-3-1 新宿モノリス

表紙・図表・写真については、著作権法上認められた場合を除き、転載をお断りします。